

# 黄金餅

三遊亭円朝

青空文庫



ずつと昔時芝の金杉橋の際へ黄金餅と云ふ餅屋が出来まし  
 て、むかししばかなすぎばしきはこがねもち  
 一時大層流行たものださうでござります。何ういふ訳  
ひとしきりたいそうはやつ  
 で黄金餅と名けたかと申すに、芝将監殿橋の際に極貧の  
こがねもちなづまう  
 者ばかりが住で居る裏家がござりまして金山寺屋の金兵衛と申す  
すんあみうらや  
 者の隣家に居るのが托鉢に出る坊さんで源八と申す者、近  
となりあみたたくはつでぼう  
 頃何う致したのか煩つて寝て居るから見舞てやらうと金兵衛が  
ろどいたわづらあみ  
 出て参り、金「御免なさいよ。源「ア、御入来なさい。見ると煎  
でまゐるごめん  
 餅のやうな薄つぺらの蒲団で爪で引搔くとポロ／＼垢が落る冷  
んべいうすふとんつめひつか  
 たさうな蒲団の上に転がつて居るが、独身者だから薬一服煎じ  
ふとんうへころあみひとりもの  
 て飲む事も出来ない始末、金「私はね今日はアノ通り朝から降り  
のできしまつわつしけふとほ

ましたので一日いちにち樂を仕しようと思つて休んだが、何なにうも困こつたもんですね、何なんですい病びやう氣きは。源「ハツ／＼いえもう貴方あなた、年が年ですから死し病びやうなんでせう。金「お前まへさん其様そのんな氣の弱よい事ことを云いつちやアいけませぬ、石いしへ獅しが噛みつ附つても癒なほらうと云いふ了れう簡けんで居ゐなくツちやアいけませぬよ。源「いえ私わつしはそら六十四ろくじゅうですもの。金「ナニ八十はちになつても九十くじゅうになつても生きてる人は生きて居ゐます、死しにたいからつて死しなれるものぢやないから確しつかりして居ゐなくツちやア。源「有ありがた難ぞんう存ぞんじます、毎度まいど御親切ごしんせつにお見舞下みまひくだすつて。金「お前まへさん医者いしやに掛かつたら何なにうです。源「いえ掛かりませぬ。金「其様そのんな事ことを云いはないでき、此この奥おくの幸齋かうさい先せん生せいは大層上たいそうじやう手ずだてえから呼よんで来きて上あげませうか。源「いえいけませぬ、

いけませぬ、ハツ／＼いしや 医者に掛かるのも宜ようがすが、直すぐと藥やく 礼れいを取られるのが残念ですから。金「いしや 医者に掛かれば是非ぜひ藥やく 礼れいを取りますよ併しかし夫それが厭いやなら 買かひぐすり 藥やく てもしなすつたら。源「かひぐすり 買かひぐすり 藥やく だつて 藥やく 違くすりちがひ てもすると 大おほごと 事ごと になりますからまア止よしませう、夫それより私わつしは喫たべて見たいと思ふ物がありますかね。金「なん 何なん ですか、遠ゑんりよ 慮りよ なく然さうお云いひなさい、私わつしが買かつて来きて上あげませう、何なん 様な物ものが喫たべたいんです、何どうも何なん だつて沢たんと 山とは喫たべられやしません。源「わつし アノ私わつしは大福餅だいふくもちか今いま 坂さかのやうなものを喫たべて見たいのです。金「もちつけ 餅もち 氣けのものを沢たんと 山と喰くちやア悪あくくはありませぬか。源「ふた いえ悪あくくつても構かまひませぬ。金「き ぢやア買かつて来きませう、二ふたつか三みつつあれば宜いいんでせう。源「どうぞ いえ、何なん 卒ぞ 三十さんじゅう ばかり。

金「其様なに喰へやアしませぬよ。源「ナニ喰へますから、願ひたいもので。金「ぢやア買つて来ませう。直に出かけたが間もなく竹の皮包を一一包持て帰つて参り、金「サ買つて来たよ。源「ア、有難う。金「サ、お湯を汲んで上げるからお喫べ、夫だけはお見舞かた／＼私が御馳走して上げるから。源「ハツ／＼何うも御親切に有難う存じます、何卒貴方お宅へ歸つて下さいますし。金「歸らんでも宜いからお喫りな、私の見て居る前で。源「夫がいけないので、私は子供の時分から、人の見て居る前では物は喰はれない性分ですから、何卒歸つて下さい、お願ひでございますから。金「あい、ぢやア歸るよ、用があつたらお呼びよ、直に来るから。と金兵衛は宅へ歸つたが考へた。金

「はてな、彼の坊主は妙な事を云ふて、人の見て居る前では物が喰はれないなんて、全体アノ坊主は大変に吝で金を溜る奴だと云ふ事を聞いて居るが、ア、云ふ奴は屹度物を喰はうとするとポーと火か何か燃上るに違えねえ、一番見たいもんだな、食物から火の燃る処を、ウム、幸ひ壁が少し破れてる、斯うやつて火箸で突ツついて、ブツ、ヤー這出して竹の皮を広げやアがつた、アレ丈悉皆喰つちまうのか知ら。見て居るとも知らず源八は餅を取上げ二ツに割て中の餡を繰出し、餡は餡餅は餅と両方へ積上げまして、突然懐中へ手を突込み暫くムググとやつて居たが、ズル／＼と扱出したは御納戸だか紫だか色気も分らぬ様になつた古い胴巻やうな物を取出しクツ／＼と扱くと中

から反古紙ほごがみに包つつんだ塊かたまりが出でました。之これを執とつてウームと力ちから任せ  
 に破やぶるとザラ／＼と出でたのが古金こきんで彼かれ此これ五六十両りやうもあらう  
 かと思おもはれる程ほど、金「お、金子かねだ、大層たいそう持つて居ゐるやアがるナ、  
 もう死ぬと云いふので己おれが見舞みめえに行いつてやつたから、金兵衛きんべゑさんに  
 是これだけ残余あとはお長家ながやの衆しゆうへツて、施与ほどこしでもするのし知ら、今茲いま  
 で己おれが行いくと尚沢山貫なほたんともらへる訳わけだと見て居ゐると金かねを七な八やづ  
 大福餅だいふくもちの中なかへ入いれ上うへから餡あんを詰つめ餅もちで蓋ふたをいたしてギユツと握に  
 ぎりかた固かためては口くちへ頬張ほくばり目めを白しろツ黒くろにして吞のみ込んで居ゐる。金「ア、  
 彼あれを喰くひやアがる、何どうも酷ひどい奴やつだナあれ／＼。と見て居ゐる中うちに忽たま  
 ち五六十両りやうの金子かねを鵜吞うのみにしたから堪たまらない、悶搔もがき搔まはつて苦くしみ  
 出いし。源「ウーンウーン金兵衛きんべゑさん、金兵衛きんべゑさん。金「あい／＼

今行くよ、今行くよ。源「ウーン〜」。金「何うしたい。源「ハ  
 ツ〜」。金「お〜〜お湯も何もなにもこぼれて大たい変へんだ。源「ド何卒お  
 湯をもう一杯下さい。金「サお喫り。源「へい有ありがた難う。微温湯  
 だから其そのま儘まゴツクリ飲むと、空からツ腹ばらへ五六十両の金子と餅もちが這  
 入たのでげすからゴロ〜〜と込こみ上げて来きた。源「ムツ、ムツ。  
 金「才、吐くのか吐くなら少しお待ち、サ此このおはち飯櫃ふたの蓋なか中へ悉す  
 皆吐ついてお了しまひ。源「ハツ〜ド何うぞモウ一杯お湯を…。金  
 「サお上り。源「へい有ありがた難う。グート息いきをも継つかずに飲のむと、  
 ゴロ〜〜と喉のどへ詰つまつたからウーム、バターリと仰あふむけ向さま  
 に顛ひっくりかへ倒たつて了しまふ。金「ア、おい源げん八ぱちさん、源げん八ぱちさん、ア  
 、死んだ、何どうも此このかね金があるんで今いままで迄しにき死切れずに居あんだナ、

金を腹はらん中なかい入いれちまつてモウ誰たれにも取とられる氣遣きづかひがないから  
 安心あんしんして死しんだのだが何どうも強慾がうよくな奴やつもあつたもんだな、是これが  
 所謂いはゆる有財うざい餓鬼がきてえんだらう、何なにしろ此このま儘ま葬はうむつて了しまふのは惜をし  
 いや、腹はら中なかに五六十兩りやうの金子かねが這入はいつてる、加おまけ之こに古金こきんだ、何どう  
 して呉くれよう、知しつてるのは己おればかりだが、ウム、宜いい事ことがある。  
 直すぐに宅たくへ歸かへつて羽織はおりを引ひきかけ差配さはい人にんの宅たくへやつて来きました。金  
 「エ、今日こんにちは。「おや是これは能ようお出いでなすつた、金兵衛きんべゑさん今日けふは  
 お休みやすみかい。金「へい、今日けふは休やすみましてござります、就つきまし  
 て差配さはいさん少々せうくお願ねがひがあつて出でました。「ア、何なんだい。金「私わ  
 たしども共ともの隣家となりの源八げんぱちと云いふ修業しゆげふに出でます坊ぼうさんナ。「イヤあ  
 の坊ぼうさんに困こまつて居ゐるのだよ、店たなうけ請ねががあつたんだけれど其店そのたな

請うけが何所どつかへ逃かけ亡おちをしてしま了しまつたので、今にもアノ坊ぼうさんに目めを  
 暝ねむられると係かかり合あひだと思つて誠まことに案あんじて居ゐるのサ。金「夫それが貴あ  
 方なた、段だん々／＼詮索せんさくつて見みますると私わたしと少すこし内ひつかかり縁ゆかりのやう様に思おもはれ  
 ます、仮令たとへみより身寄みよでないにもせよ功德くどくの為ために葬とむらひ式しきだけは私わたしが引受  
 けて出でしてやりたいと存ぞんじますが、夫それに当たう人にんの遺言ゆゑごんで是非ぜひ火  
 葬わさうにして呉くれると申まうすことで。「成程なるほど、夫それは何どうも御奇ごき特とくな事  
 で、お前まいが葬とむらひ式しきを出でして呉くれ、ば誠まことに有あり難がたいね、ぢやア何なに  
 分んお頼たのウ申まうすよ、今いまに私わたしも行ゆきますが、早はや桶をけや何なにかの手当てあて  
 は。金「ナニ宜よろしうございいます、湯灌ゆくわんや何なにかもザツと致いたしまし  
 て、早はや桶をけと云いつては高たかいものですし何どうせ焼やいて了しまふもんです  
 から沢庵たくあん樽たるか菜漬なづけ樽たるにでも入いれませう。「夫それが宜よからう、ソ

コでお前まへさんは施主せしゆの事ことだから袴はかまでも着つけるかい。金「ナニ夜分よるの事ことでげすから襦袢じゆばんをひつくり返して穿はきます。「デモ編笠あみがさは被かぶらなければなるまい。金「ナニ三俵さんだらポツチでも被かぶつて摺すり小木こぎでも差さして往ゆきませう。「可笑をかしいな、狐きつねにでも化ばかされたやうで。金「ナニ構かまやアしませぬ。「ぢやア何なに分ぶん頼たのむよ。金「へい宜よろしうがす。「お寺てらは何所どこだい。金「エ、麻布あさぶの三軒家さんげんやなんで。「何どうも大變たいへんに遠とほいね、まア宜よい、ぢやア其その積つもりで。金「へい畏かしこまりました。是これから宅たくへ歸かへつて支度したくをして居ある中うちに長家ながやの者ものも追おひ々く悔やみに來くる、差配さはい人にんは葬式さうしきの施主せしゆが出來できたので大おほきに喜よろこび提ちやう灯ちんを点つけてやつて参まゐり「金兵衛きんべゑさん色いろ々くお骨折ほねをり、誠まことに御苦勞ごくろう様さま。金「何どういたしまして、何どうも遠方ゑんぱうの処ところを恐おそれい

入いづります、何いづれも稼かせ業ふにん人ばかりですなら成なるたけ早いたく致しましてししまひたいと存ぞんじます。「其その方ほうが宜いい、机なや何なにか立り派つぱに出来できたね。金

「ナニ板いたの古ふるいのがありましたからチヨイと足あしを打うち附つけて置おいたので。成なる程ほど、早はや桶をけは大だい分ぶん宜いいのがあつたね。金「ナニ是これは沢たく庵あん樽だるで。「おや、山やまに十じゅうの字じの焼やき印いんがあるね、是これは己おれン所ところの沢たく庵あん樽だるぢやアないか。金「何なんだか知しれませぬが井い戸ど端ばたに水みづが盛もつてあつたのを覆おほして持もつて来きましたが、ナニ直ちきに明あけてお返かえし申まうす。「明あけて返かえしたつて仕しやうがない、冗じよう談だん云いつちやアいけいない、ぢやアそろく出でかけよう。是これから長なが家やの者ものが五ご六ろく人にん付ついて出でかけましたが、お寺てらは貧ひん窮きゆう山さん難なん渋じふ寺じと云いふので、本ほん堂だうには鴻こう雁がん寺じが二に挺てい点てんつて居ゐる。金「皆みなさん嘸さぞお疲くた勞たびでご

ざいませう、大きおほに有あり難がたう存ぞんじました。甲「何どうも可か哀あいさうな  
 事ことをしましたな、私わたしも長ながらく一しよ緒をに居をつたが喰くふ物ものも喰くはずに修し  
 業ゆげふして歩あき、金かね子を蓄ためた人ひとですから少せうしは貯こゝろがけ金かねがありまし  
 たらう。金「いえ何なにもありませぬよ、何どうぞ卒みな皆みなさん此こ方ちへお出いでなす  
 つてナニ本ほん堂だうで蓆たばを喫のんだつて構かまやアしませぬ。其その中うちに和をし  
 尚うがく出くて来くる。和「ハイ何どうも御ご愁しう傷やうな事ことで。金「何どうぞ卒ぞ一いつツ  
 何なんとでも戒かい名めうをお附つけなすつて。此このほとけけ 仏ぶつは是これ々くで餅もちと金かねを一いつ  
 緒くに食くつて死しんだのでげすから、とも申まうされませんが、戒かい名みやうを見  
 ると「安あん妄もう養やう空くう信しん土じ」と致いたして置おかれたのには金きん兵べい衛ゑいが驚おどろき  
 ました。金「成なる程ほど、是これは面おも白しろうがすな。和「夫それでは引いん導だうを  
 渡わたして上あげよう。グワン〜と鉦かねを打うち鳴ならし、和「南な無む喝から囉たんの怛だん那な、

とらやや、とらやや 南無阿唎耶、なむおりのや 婆慮羯諦爍鉢羅耶、ばりよぎやていしふふらや 菩提薩※婆耶。ふちさとばや  
とらやや と神咒を唱へとな 往生集を朗読してわうじやうしふ 後に引導を渡し、のち いんどう 焼香せうかう  
す も済んで了ふと。金「何うも皆さんみな 遠方の処ゑんぼうとこ 誠まこと に有難ありがた う存ぞん じま  
ほんらい した、本来ならば強飯かおこほ お酢すし でも上げなければならぬいんです  
ごしようち が、御承知の通りとほ の貧乏葬式びんぼうどむらひ でげすから、恐おそれいり 入い りました  
なに が何も差上げさしあ ませぬ、尤も外へ出もつと ますと夜鷹蕎麦よたかそば でも何なん でもあり  
あなたがた ますから貴所方あなただがた のお銭あし で御勝手ごかつて に召上めしあが りまして。甲「何なん だ人ひ  
とおもしろ とおもしろ  
さき 面白くもねえ、先へ出さき しよう。金兵衛きんべゑ どんお前まい 是これ から焼場やきば  
も へ持つて行くゆ のに独ひとり ぢやア困こ んだらうから己おれ が片棒かたぼう 担かつ いでやら  
よろ うか。金「ナニ宜よろ しようがす、私わたし が独ひとり で脊負しよつ て行ゆ きます、成なる だけ入も  
か 費か の係か らぬ方ほう が宜よろ しようがすから。「宜い いかえ。金「エ、宜よ うがす

とも。と早桶はやをけを脊負しよひ焼場やきば鑑札かんさつを貰もらつてドン／＼焼場やきばへ来きま

して。金「お頼たのう申まうします。坊「ドーレ。金「何卒どうぞこれを。坊

「ア、成程なるほど、難渋なんじふじ寺かへ、宜よろしい、此方こちらへ。金「それで此並このな

焼みやきはお幾いくらでげす。坊「並焼なみやきは一步と二百だね。金「へ、一

何どうでげせう、三朱位しゆらゐには負まかりますまいか。坊「焼場やきばへ来きて値切ねぎ

るものもないもんだ、極きまつて居ゐるよ。金「ナ二本ほんたう当やに焼やけない

でも宜よろしいんで。坊「然さうはいかない、一いつたい体に火かが掛かるんだか

ら。金「頭ぼうと足ほうの方はホンガリ焼やいて腹はらは生なま焼やきにはなりますま

いか。坊「然さうはいきませぬよ、元もと膩あぶらだから一いつたい体に火かが掛か

るでな。金「ぢやア明みやう朝あさ早く骨揚こつあげに来きますから、死骸しがいを問ま

違ちがひないやうに願ねがひます。坊「其様そんな事ことはありやせぬ。金「何なに

分たの頼まうみ申まうします。と宅たくへ帰かへつたがまだ暗うちい中にやつて来きました。金「お早さくばんう。坊「えらう早きく来きたな、まだ薄うすぐら暗くらいのに。金「エへ、昨おほき晩やかは大おほきにお喧やかましようございます。坊「ウム値ねぎつ切つた人ひとか、サ此こつち方はへ這はい入いんなさい。金「へい、有ありがた難たう。坊「穩をんぼう坊ぼうく、見あて上あげろ。穩「はい此こつち方はへお出いでなさい、骨こつを入いれる物ものを持もつてお出いでなすつたか。金「イエ、何なにか買かはうと思おもつたが大だい分ぶん高たけえやうですから、彼あそこ所こに二し升じょう壺こりの口くちの欠かけたのがあつたから彼あれを持もつて来きました。穩「彼あれは私わしが水みづを入いれて置おいたのだ、無む闇やみに口くちなんぞを打ぶ欠つかいちやアいいけませぬよ。金「エへ、御ご免めんなさい、兎とに角かく頂ちやう戴たいしませう、一たい体たいに黒くろくなりやしたな、何どうも、南な無む阿あ弥み陀だ仏ぶつ々つ々つ《《》々つ々つ《《》々つ々つ《《》々つ々つ《《》、成なるほど程このき此は木しの箸はしと竹たけ

の箸はしで斯かうするんですな、お前まいさん彼方あつちへ行いつて、お呉くんなさい。  
 穩わし「私わしが見て居ゐねえでは齒骨はつこつや何かなに分わかるまい。金「ナニ知ちつて  
 るよ、ちやんと心こころ得えてるんだ、彼方あつちへ行ゆけ、行ゆかねえと撲なぐり附つ  
 けるぞ、行いかねえか畜生ちくしやう。箸はしで段だん々／＼灰はいを搔かいて行ゆくと腹はら  
あたりかたまりの辺へに塊かたまりがあつたから木と竹の箸はしでヅンと突割つきわると中なかから色かはも変かは  
 らず山吹色やまぶきいろの古金こきんが出るから、慌あはて、両方りやうほうの袂たもとへ入れなが  
 ら。金「穩坊をんぼうの畜生ちくしやう、此方こつちへ這入はいつて来きやアがると肯きかねえぞ、  
むやみ無闇へいりに這入はいりやアがるとオンボウ焼やいて押付おつけるぞ。と悪体あくたいをつ  
 きながら穩坊をんぼうの袖そでの下したを搔かい潜かつてスーツと駈出かけだして行ゆきまし  
 た。穩「アレ、乱暴狼藉らんぼうらうぜきな奴やつもあればあるものだ、アレ逃にげ  
 てツちまつた。金兵衛きんべゑさんは此この金子かねを以もつて、芝金杉橋しばかなすぎばしの本もとへ、

こがねもち  
黄金餅いと云ふ餅屋もちやを出したのが、  
たいそう  
大層繁昌はんじやういたした。と  
い  
云ふ一席せきばなし話でござります。



# 青空文庫情報

底本：「明治の文学 第3巻 三遊亭円朝」筑摩書房

2001（平成13）年8月25日初版第1刷発行

底本の親本：「定本 円朝全集 巻の13」世界文庫

1964（昭和39）年6月発行

入力：門田裕志

校正：noriko saito

2009年8月14日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www>

W.aozora.gr.jp) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランテイアの皆さんです。

# 黄金餅

三遊亭円朝

2020年 7月13日 初版

## 奥付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail [info@aozora.gr.jp](mailto:info@aozora.gr.jp)

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>  
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。  
<http://tokimi.sylphid.jp/>